

カナダ金融政策（2026年7月）

経済に改善の兆し、ただし利上げはまだ遠い

2026年7月16日

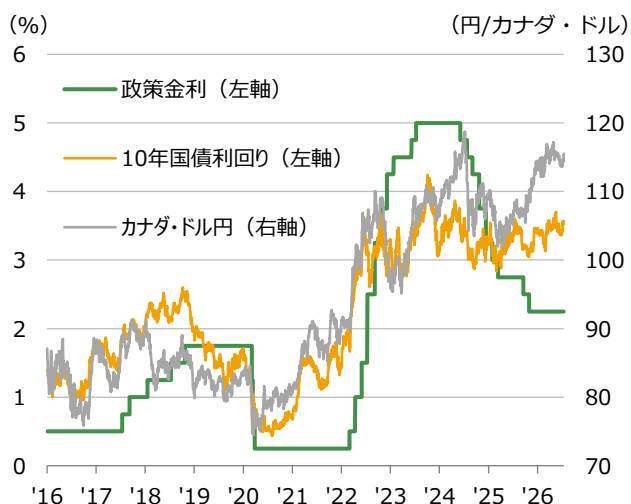
年内は政策金利据え置きの公算で、国債利回りは引き続き安定推移か

カナダ銀行（中央銀行）は7月15日（現地）に金融政策決定会合を開催し、市場予想通り政策金利を2.25%に据え置くことを決定しました。据え置きは6会合連続です。

実質GDPは今年1-3月期まで2四半期連続のマイナス成長となりましたが、カナダ銀行は4-6月期を前期比年率+2.5%と予想しています。声明文では「経済が改善の兆しを示している」と述べ、景気に対して従来より前向きな見方が示されました。USMCA（米国・メキシコ・カナダ協定）見直しは協議が続いており、引き続き大きな不透明要因ですが、カナダ銀行は米国の保護主義的な通商政策による逆風に企業が適応しているとも指摘しました。それでも4-6月期の需給ギャップは▲1.5～▲0.5%との推計で、経済は需要不足との評価です。また、カナダ銀行は7-9月期の実質GDPを前期比年率+1.5%と予想するなど、当面は潜在成長率を若干上回る程度の成長にとどまる見込みで、需給ギャップの解消には時間を要しそうです。

インフレ率は、各種コア指数が前年比+2%近傍に落ち着いています。需給ギャップのマイナスが続く中、6月の原油安でインフレの下振れ懸念まで意識される場面がありましたが、7月前半の原油価格反発や経済指標の改善でその懸念は後退しました。原油価格が足元の水準付近で推移すれば、金融政策の方向性は据え置きから利上げに移っていくとみられます。ただし、前述の需給ギャップの動向に鑑みれば年内は政策金利据え置き公算が大きく、引き続き国債利回りは他国に比べて安定的に推移しやすいと考えます。

カナダの金利と為替



※直近値は2026年7月15日
※政策金利は決定日ベース

（出所）ブルームバーグ

カナダの需給ギャップとインフレ率



※直近値は需給ギャップが2026年4-6月期、消費者物価指数が2026年5月

（出所）カナダ銀行、カナダ統計局より大和アセット作成

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management